

## 葉たばこ廃作地で「短根ごぼう」栽培に取り組んでいます

中能登農林総合事務所

日本たばこ産業株式会社が実施した葉たばこの廃作募集に対して、志賀町富来地区の農家15戸が葉たばこの栽培をやめることになり、代わりに栽培する作物について、当事務所に相談が寄せられました。しかし、当地区は富来川から流れ出た砂と増穂が浦で生成された桜貝の粉末とが混ざったアルカリ性の特異な土壌地帯で、通常の野菜栽培では肥料が効きにくく、育ちにくいなどの課題があります。

このため当事務所では、地元志賀町、JA志賀、全農石川県本部と協議し、アルカリ性土壌でも栽培可能な「短根ごぼう」を提案しました。その理由は、①市場ニーズはあるものの全国的に新しい食材で競争相手が少ない、②長さが20～30cmと短く、通常のごぼうより収穫が容易だからです。

しかしながら、当地区での栽培は初めての取り組みであり、農家にも不安や戸惑いがありました。これに対し当事務所では、県農業試験場及び流通業者等と「短根ごぼうプロジェクト委員会」を立ち上げ、農家との座談会を幾度も開催し、「短根ごぼう」栽培を支援することにしました。この結果、4戸と1集落営農組織が、4月上旬から7月中旬まで2週間ごとに種まきを行う「段播き栽培」に試験的に取り組むことにしました。

今後は、種まきした時期別の収量や品質などを評価しながら、関係者の総力で産地化に取り組んでいきます。



短根ごぼうプロジェクト会議



短根ごぼうの生育状況（5月）

問い合わせ先：中能登農林総合事務所農業振興部  
(0767-52-5522)